

7	6	5	4	3	2	1	児童用	教師用	聞き取り問題
○はなしたい、ききたい、すきな こと お話を 音読しよう ― 風の ゆうびんやさん ― ○としよかんへ いこう ○かん字の かき方	はたらく 人に 話を 聞こう たんぽぽの ひみつを 見つけよう ― たんぽぽ ― かんさつした ことを 書こう	○かたかなで 書く ことは すきな 場めんを 見つけよう ― 名前を 見て ちょうだい ―	○じゅんじょ こんな ことを して いるよ 話そう、二年生の わたし	二つの 文しようにを くらべよう ― どうぶつえんの かんばんと ガイドブック ― 言いつたえられて いる お話を 知ろう	しを 読もう ― いろんな おとの あめ ― ― 空に ぐうんと 手を のばせ ― みんなで はなしあおう	そうぞうを ふくらませて 読もう ― ニャーゴー ― ○ものの 名前を あらわす ことは 絵を 見て お話を 書こう			
									
									
									

一 つぎの 文しようを 読んで、
もんだいに こたえましよう。 『65』

「あげはちようさん、ゆうびんです。」
花びらみたいなの、いい においの 手がみが
とどきました。

「あら、うれしい。パーティーの しようたい
じようですって。こうえんで、ばらの 花が
さいたんですって。ぜ ひ い かな く ちや。」
おしやれな あげはちようは、

と し た く を は じ め ま す。

「犬さん、ゆうびんです。」

にわの 犬ごやの、おじいさん犬の ところ
には、は が き が と ど き ま し た。

「ほう。となり町に ひっこして いった、ま
ごたちからだ。みんな げんきに くらして
います、か。うん。よかつた、よかつた。」
犬は、目を ほそくして、なんども なんど

も は が き を 読 み な お し ま す。

「すずめさん、ゆうびんです。」
こんどの 手がみは、やねの 上。

、風の じてん車は、

どこにでも はいたつします。

「すずめの 学校が はじまる おしらせよ。」
手がみを 読んで、すずめの おかあさんが
言いました。

「学校って、なあに。なに する ところなの。」
この はる 生まれた 子すずめたちが き
きました。

「みんなで あそんだり、うたを うたったり
するのよ。」

とびかたとか、えさの さがしかたとか、い
ろんな ことを ならうのよ。」

「わあ、おもしろそう。早く いきたいな。」
子すずめたちは、みじかい はねを ひろげ
て、おかあさんの まわりを

とびまわりました。

たけしたふみこ「風のゆうびんやさん」より

一 に あてはまる ことばを

から えらんで かきましよう。

〈40各10〉

やっぱり でも いそいそ
それから すると ぴよんぴよん

(解答欄にかくように説明を補足してください。)

2 ① いい においとは どのような
においですか。一つ えらんで、

() に ○ を つけましよう。 〈5〉

() 花びらみたいなの におい。

() おいしい みつの におい。

() おしやれな ふくの におい。

3 犬は、なぜ ② なんども なんども
は が き を 読 み な お し た の で す か。

「くから。」という ことばを つかっ
て、かきましよう。 〈10〉

4 「わあ、おもしろそう。」と、子すず
めたちが 話している ところは、

どんな声で 読むと よいですか。

「く声。」という ことばを つかって
かきましよう。 〈10〉

二 つぎの 赤で かかれた 画は、
なん画目に かきますか。 () に
かん字で かきましよう。 〈15各5〉

三 に かん字を かきましよう。 〈20各5〉

一 げん き

に くらす。 2 メモに

か ざ

4 としよかんへ

い く。

く。

く。

く。

く。

く。

く。

く。

く。

く。

く。

く。

一 三田先生の話を聞いて 三田先生がしている しごとについて 正しいものに ○を、まちがっているものに ×を つけましょう。『15各5』

() けがをした 人の 手あてをする。

() きゅうしよくを 作っている。

() けんこうの ために、しつて もらい たい ことを つたえている。

二 つぎの 文しようを 読んで、 もんだいに こたえましょう。『50』

たんぽぽは じょうぶな 草です。はが ふまれたり、 つみとられたり しても、また 生えて きます。ねが 生きて いて、 あたらしい はを 作り出すのです。

たんぽぽの [] を ほって

みました。ながい ねです。百センチメートルいじょうの ものも ありました。

はるの はれた 日に、花が さきます。

花は、夕方 日が かげると、とじて

まいます。夜の あいだ、ずっと とじて

います。つぎの 日、日が さして くる

と、 [] ひらきます。

花をよく 見て みましょう。

一つの 花のように 見えるのは、



花の あつまりなのです。

小さな 花を 数えて みたら、百八十もありました。これより おおい ものも、 少ない ものも あります。この 小さな

花に、みが [] できるよう

になって います。

ひらやまかずこ「たんぽぽ」より

一 文しよう中の [] に あてはまる ことばを [] から えらんで 書き ましょう。 <20各5>

大きな 小さな 一つずつ み
ね しかし また

(解答欄に書くように説明を補足してください。)

2 たんぽぽの はが ふまれたり、つみとられたり しても、また 生えてくるのは なぜですか。「くから。」という ことばを つかって 書きましよう。 <10>

3 たんぽぽの 花は、一日の うちに どうなる でしょうか。正しい じゆんになるように [] に ばんごうを 書きましよう。 <20各5>

[] はるの はれた 日に、さく。

[] 夜の あいだ、ずっと とじて いる。

[] つぎの 日、日が さして くと、ひらく。

[] 夕方 日が かげると とじる。

三 みまの回りの ものを かんざつした ことを、どのように 「かんざつカード」に 書くと よいですか。正しい もの すべてに ○を つけましよう。 『完答10』

() 大きさ、かたち、いろなどを 書く。

() にて いる ものに たとえて 書く。

() 今日、あつた できごとを 書く。

() 数字を つかって くわしく 書く。

四 [] に かん字を 書きましよう。 『25各5』

[] げ

一 わた [] 2 [] じ かん わり

き いろ

3 [] の花。 4 [] おお い。

なん

5 [] びき いますか。

一 つぎの 文しようにを 読んで、 もんだいに こたえましょう。

「あたしは かえらないわ。だって、あたしの ぼうしだもん。」

えっちゃんの からだ

から 湯気(ゆげ)が もうもうと 出て きました。そして、ぐわあんと 大きく なりました。

「たべるなら たべなさい。あたし、おこつて いるから、あついわよ。」

湯気を 立てた えっちゃんの からだが、

ぐわあんと 大きく なりました。そうして、大男と おなじ 大きさに なって しまいました。

えっちゃんは、たたみのような 手のひらを まっすぐ のばして 言いました。

「あたしの ぼうしを かえしなさい。」

大男は、ぶるっと みぶるいを しました。

ぶるぶる ふるえながら、空気(くき)の もれる 風

せんのように、しぼんで、しぼんで、しぼんで、とうとう 見えなく なって しまいました。

あとに、ぽつんと

一つ、小さな 赤い もの。

「あつ、あたしの ぼうし。」

ひろって、名前(な)を 見ました。

う、め、だ、え、つ、こ。青い ししゅう糸で、

、そう 書いて あります。

「ああ、よかった。」

あまんきみこ「名前を見てちょうだい」より



一 〔 〕に あてはまる ことばを から えらんで、書きましょう。

〈20各5〉

しかしまた だから たしかに すると その

(解答欄に書くように説明を補足してください。)

2 「あついわよ。」とありますが、どうして あついのですか。「くから。」という ことばを つかって、書きましょう。

〈10〉

3 大男は、何のよう(2)に しぼんで いきましたか。文しようにから 九字でぬき出しましょう。

〈10〉

のように。

4 えっちゃんは なぜ 「ああ、よかった。」と 言ったのでしよう。 「くから。」という ことばを つかつて、書きましょう。

〈10〉

5 つぎの 〔 〕に あてはまる ことばを 〔 〕から えらんで 書きましょう。

〈15各5〉

お話を、いくつかの 場めんに分けるときは、お話の 中の

を 手がかりに して 考えます。

時 ページ 声 場しよ 人ぶつ うごき

二 かたかなで 書く ことばを から 二つ えらび、かたかなになおして 書きましょう。

〈10各5〉

にほん いんど わんわん ひらひら

三 〔 〕に かん字を 書きましょう。

〈25各5〉

うし

あたま

がい こく

1 〔 〕

2

3

けい さん

した

4

する。

5

しい。

一 山口さんの メモと 話を 読んで、 もんだいに こたえましょう。 『45』

山口さんの メモ

どんな できごとか

一年生と校でいてあそんだこと。
その ときの かわいい ようす
ペアの川野さんに、ぶらんこのこぎ方を
おしえた。

①「ありがとう。」と言ってくれた。

その ときの 気持ち

おれいを言ってくれてうれしかった。
またいっしょにあそびたい。

山口さんの 話

わたしは、一年生と いっしょに 校
でいて あそんだ ことが、心に の
こって います。

ペアに なった 川野さんに ぶらん
この こぎ方をおしえて あげました。

②「ありがとう。」と言っ

てくれて、とても うれしい 気持ちに
なりました。

また いっしょに いろいろな あそ
びを したいと 思います。

一 山口さんの 心に のこっている
できごととは なんですか。メモから
えらんで 十四字で 書きましょう。

2 山口さんの ①その ときの 気持ち
に あう ものに ○を つけましょ
う。 『10』

- () こんどは ほかの 子と あそびたい。
- () また いっしょに あそびたい。
- () いっしょに べんきようを したい。

3 ②「ありがとう。」のよう な だいじな
ところは、どのように 話すと よい
ですか。声の 大きさや 話す はや
さを 考えて 書きましよう。 『10』

4 だいじな ところが つたわる よ
うに 話す ときに、気をつけると
よい ことに ○を、まちがって い
る ことに ×を つけましよう。 『15各5』

- () おもいついた じゆんに 話す。
- () つたえたい ことを たしかめ
てから 話す。
- () だいじな ところは、小さな
声で 早口で 話す。

二 文しように 書く とき、「はじめ」

「中」「おわり」に どんな ことを
書くと よいですか。それぞれ あう
ように ●と○を せんで おすびま
しよう。 『15各5』

- はじめ ● ○ いた、えたい ことに つ
いて、くわしく 書く。
- 中 ● ○ 何を 書いて つたえる
かを 書く。
- おわり ● ○ 思いや 考えを 書く。

三 つぎの 文しようにの ①に あ

てはまる ことばを ②から え
らんで 書きましよう。 『30各10』

おふろそうじをする ときは、

①、水でおふろをぬらし

ます。 ②、スポンジに せ

んざいをつけます。それから、スポン
ジでおふろをこすります。

③、あわをながします。

でも つぎに まず さいごに

四 ④に かん字を 書きましよう。 『10各5』

一 人に ⑤おし える。 二 ぼくの ⑥いえ。

かんばんと ガイドブックの せつ明を 読んで、つぎの もんだいに きたえましょう。

〔60〕

かんばんの せつ明

アフリカゾウ

すんで いる 場しよ

アフリカ

体の 大きさ

体の ながさは 四メートルから

六メートル

体の おもさは 四トンから 七トン

たべもの

くさや、木の えだや は、くだもの など

ガイドブックの せつ明

アフリカゾウ

すんで いる 場しよ

アフリカの そうげんや

森林に すんで います。

体の 大きさ

りくに すんで いる

どうぶつの 中で、もっとも

大きい どうぶつです。

体の ながさは 四メートルから

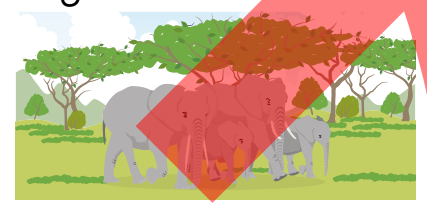
六メートル あり、体の おもさは

四トンから 七トン あります。

たべもの

たべものは、しよくぶつです。くさや、木の えだや は、くだものなどを たべます。一日の うち、おきて いる

時間の ほとんどは、たべものを たべて いると いわれて います。



2 「すんで いる 場しよ」のやうに そのあとに どんなことが 書かれて いるかを みじかく まとめた ものを 何と いいですか。三字で きたえましょう。

〔10〕

3 つぎの 文の うち、かんばんと ガイドブックの りやうほうに 書いて あるものを 一つ えらんで、○をつけましょう。

〔10〕

() りくに すんで いる どうぶつ

() の 中で、もっとも 大きい。

() おきて いる 時間の ほとんど

は、たべものを たべて いる。

() くさや、木の えだや は、くだものなどを たべる。

4 かんばんと ガイドブックの せつ明の よいところを 書きましょう。

〔20 各 10〕

かんばんの せつ明の よいところ

ガイドブックの せつ明の よいところ

二 むかしから 言いつたえられて いる お話の 中から、知って いるものの だい名を 一つ 書きましょう。

〔10〕

三 にかん字を 書きましょう。

えん

にく

〔30 各 5〕

1 どうぶつ

2

ふと

る。

おな

3

る。

4

じところ。

なが

る。

そう

げん

5

い線。

6

げん

ゆき
が
ふ
る。

一 つぎの 文しようにを 読んで、 もんだいに 答えましょう。

『60』

ももを 食べおわると、三びきの 子ねずみと ねこは、のこった ももを もって、かえって きました。

そして、あと 少しの ところまで 来た と

きです。ねこは、

ニャーゴ

できるだけ こわい かおで さけびました。

「おまえたちを 食って やる。」

②と言おうと した その ときです。

ニャーゴ

ニャーゴ

三びきが さけびました。

「へへへ、たまおじさんと はじめて 会った

とき、おじさん、ニャーゴって 言ったよね。

あの とき、おじさん、こんにち はって 言っ

たんでしょ。そして、今の ニャーゴが さ

よならなんですよ。」

「おじさん、はい、これ おみやげ。」

「みんな 一つずつだよ。ぼくは、おとうとに

おみやげ。」

「ぼくは、妹に。」

「ぼくは、おとうとに。たまおじさんは、おとう

とか 妹 いるの。」

「おれの うちには、子どもが いる。」

ねこは、小さな 声で 答えました。

みやにしたつや「ニャーゴ」より

〈20 各10〉

1 〔 〕に あてはまる ことばを

〔 〕から えらんで 書きましょう。

すいすいと ぴたっと そして だから

2 できるだけ こわい かおで

「ニャーゴ」と さけんだのは なぜ

ですか。「くから。」という ことばを

つかって、書きましょう。

〈10〉

3 三びきの 子ねずみが さけんだ

②「ニャーゴ」は、どんな いみでした

か。一つ えらんで () に ○

を つけましょう。

〈10〉

() さよなら () こんにちは

() こわいよう

4 「これ おみやげ」と 言って、子 ねずみは ねこに 何を わたしまし たか。

〈10〉

5 「おれの うちには、子どもが い

る」を 音読するとき、どんな 声で

読むと よいですか。一つ えらんで

() に ○を つけましょう。

〈10〉

() おどかすような 大きな 声。

() こまったような 小さな 声。

() こわがっているような ふるえた 声。

二 場めんの つながりを 考えて、②

の 場めんの お話を そうぞうして

書きましょう。

『10』

①



くまの 子と きつねの 子が 川の むこうへ あそびに 行き ました。ところが、かえろうとすると、 はしが、なくなって いました。 二人は こまって しまいました。

②

③



こうして、二人は ぶじに か える ことが できました。

三



に かん字を 書きましょう。

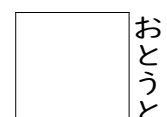
『30 各5』

1



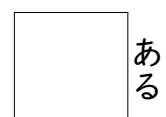
かお はし いる。

3



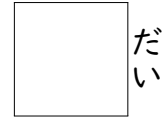
おとうと ち ず をかく。

5



ある くだる。

6



だい にのる。

(例) (教師判断)は、授業での指導をふまえ、記述より判断し、部分点を与えてください。

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

東しよ	
2年	
1	
令7 国上	
○はなしたい、ききたい、好きなこと お話を 音読しよう ―風の ゆうびんやさん― ○としよかんへいこう ○かん字のかき方	
P12～33	名 ま え
評 点	点
知識技能	／35
思考判断表現	／65

一 つぎの 文しようを 読んで、

もんだいに こたえましよう。

『65』

「あげはちようさん、ゆうびんです。」
花びらみたいなの、いい においの 手がみが
ときました。

「あら、うれしい。パーティーの しょうたい
じようですって。こうえんで、ばらの 花が
さいたんですって。ぜひ いかなくちや。」
おしやれな あげはちようは、

いそいそ

と したくを はじめます。

「犬さん、ゆうびんです。」

にわの 犬ごやの、おじいさん犬の ところ
には、はがきが ときました。

「ほう。となり町に ひっこして いった、ま
ごたちからだ。みんな げんきに くらして
います、か。うん。よかった、よかった。」
犬は、目を ほそくして、なんども なんと

も はがきを 読みなおします。

「すずめさん、ゆうびんです。」

こんどの 手がみは、やねの 上。

でも

、風の じてん車は、



どこにでも はいたつします。

「すずめの 学校が はじまる おしらせよ。」
手がみを 読んで、すずめの おかあさんが
言いました。

「学校って、なあに。なに する ところなの。」
この はる 生まれた 子すずめたちが き
きました。

「みんなで あそんだり、うたを うたったり
するのよ。 **それから**、じようずな

とびかたとか、えさの さがしかたとか、い
ろんな ことを ならうのよ。」

「わあ、おもしろそう。早く いきたいな。」
子すずめたちは、みじかい はねを ひろげ
て、おかあさんの まわりを

ぴよんぴよん

とびまわりました。

たけしたふみこ「風のゆうびんやさん」より

一 に あてはまる ことばを

から えらんで かきましよう。

〈40各10〉

やっぱり でも いそいそ
それから すると ぴよんぴよん

(解答欄にかくように説明を補足してください。)

2 ① いい においとは どのような

においですか。一つ えらんで、

() に ○を つけましよう。 〈5〉

(○) 花びらみたいなの におい。

() おいしい みつの におい。

() おしやれな ふくの におい。

3 犬は、なぜ ② なんども なんども

はがきを 読みなおしたのですか。

「くから。」という ことばを つかっ
て、かきましよう。 〈10〉

まごたちが、みんな元気にくらしてい

ることがわかり、うれしかったから。

※理由を表す言葉「から」がなければ2点減点。(教師判断)

4 「わあ、おもしろそう。」と、子すず

めたちが 話している ところは、

どんな声で 読むと よいですか。

「く声。」という ことばを つかって
かきましよう。 〈10〉

うきうきとしたあかるい声。

※「声」がなければ2点減点。(教師判断)

二 つぎの 赤で かかれた 画は、

なん画目に かきますか。() に
かん字で かきましよう。 〈15各5〉

左 右 正

三 に かん字を かきましよう。

げん き

元 気

にくらす。2 メモに

書 く。

〔20各5〕

3 もの

数

4 としよかんへ

行 く。

い

(例) (教師判断)は、授業での指導をふまえ、記述より判断し、部分点を与えてください。

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

東 書	
2 年	
令7 国上	
かんざつした	たんぽぽの ひみつを 見つけよう
P 34～53	
名 ま え	
評	点
知識技能	／35
思考判断表現	／65

一 三田先生の話を聞いて 三田先生

生がしている しごとに ついて
正しいものに ○を、まちがっているものに ×を つけましょう。『15各5』

(○) けがをした 人の 手あてを する。
(×) きゅうしよくを 作っている。
(○) けんこうの ために、しつて もらい たい ことを つたえている。

二 つぎの 文しようを 読んで、

もんだいに こたえましょう。『50』

たんぽぽは じょうぶな 草です。はが ふまれたり、つみとられたり しても、また 生えて きます。ねが 生きて いて、 あたらしい はを 作り出すのです。

たんぽぽの

ね

を ほって

みました。ながい ねです。百センチメートルいじょうのものも ありました。

はるのはれた 日に、花が さきます。

花は、夕方 日が かげると、とじて しまいます。夜の あいだ、ずっと とじて います。つぎの 日、日が さして くる

と、

また

ひらきます。

花をよく 見て みましょう。

一つの 花のように 見えるのは、

小さな

花の あつまりなのです。

小さな 花を 数えて 見たら、百八十もありました。これより おおい ものも、 少ない ものも あります。この 小さな

一つずつ

できるよう

花に、みが になって います。

ひらやまかずこ「たんぽぽ」より

一 文しよう中の 〇に あてはまる

ことばを 〇から えらんで 書き

ましょう。

〈20各5〉

大きな 小さな 一つずつ

ね しかし また

(解答欄に書くように説明を補足してください。)

2 たんぽぽの はが ふまれたり、つ

みとられたり しても、また 生えて くるのは なぜですか。「くから。」と いう ことばを つかって 書きま しょう。〈10〉

ねが生きていて、あたらしいはを 作り出すから。

※理由を表す言葉「から。」がなければ2点減点。(教師判断)

3 たんぽぽの 花は、一日の うちに どうなる でしょうか。正しい じゆ んに なるように 〇に ばんごう を 書きましょう。〈20各5〉

1 はるの はれた 日に、さく。

3 夜の あいだ、ずっと とじて いる。

4 つぎの 日、日が さして くと、ひらく。

2 夕方 日が かげると とじる。

三 みの回りの ものを かんざつした ことを、どのように 「かんざつカード」に 書くと よいですか。正しい もの すべてに ○を つけましょう。『完答10』

(○) 大きさ、かたち、いろなどを 書く。
(○) 〇に いて いる ものに たとえて 書く。
(○) 今日、あつた できごとを 書く。
(○) 数字を つかって くわしく 書く。

四 〇に かん字を 書きましょう。『25各5』

1 わた 毛

2

時間

わり

3 黄色

の花。

4

多い。

5

何

びき いますか。

東 書	
2 年	3 年
令7 こく上	
○かたかなで書くことば — 名前を見てちょうだい —	
P 54～73 名 前	
評 点	
■ 知識技能	／50
■ 思考判断表現	／50

一 つぎの 文しように を 読んで、 もんだいに こたえましょう。 『65』

「あたしは かえらないわ。だって、あたしの ぼうしだもん。」

すると

から 湯気^{ゆげ}が もうもうと 出て きました。そして、ぐわあん と 大きく なりました。「たべるなら たべなさい。あたし、おこっているから、あついわよ。」

また

湯気を 立てた えっちゃんの からだが、ぐわあん と 大きく なりました。そうして、大男 と おなじ 大きさに なって しまいました。えっちゃん は、たたみ のような 手のひらを まっすぐ のばして 言いました。

「あたしの ぼうしを かえしなさい。」

大男は、ぶるっと みぶるいを しました。ぶるぶる ふるえながら、空気 の もれる 風 せんのように、しぼんで、しぼんで、しぼんで、とうとう 見えなく なって しまいました。

その

あとに、ぽつんと



一つ、小さな 赤い もの。「あつ、あたしの ぼうし。」ひろって、名前を 見ました。う、め、だ、え、つ、こ。青い ししゅう糸で、

たしかに

、そう 書いて あります。

「ああ、よかった。」

あまんきみこ「名前を見てちょうだい」より

1 に あてはまる ことばを から えらんで、書きましょう。 〈20各5〉

しかしまた だから たしかに すると その

2 「あついわよ。」とありますが、どうして あついのですか。「くから。」という ことばを つかって、書きましょう。 〈10〉

(えっちゃんが) おこっているから。

※理由を表す言葉「から。」がなければ2点減点。(教師判断)

3 大男は、何のように ^② しぼんで いきましたか。文しようにから 九字でぬき出しましょう。 〈10〉

風	空
せ	気
ん	の
	も
	れ
	る

のように。

4 えっちゃんは なぜ ^③ 「ああ、よかった。」と 言ったのでしよう。「くから。」という ことばを つかって、書きましょう。 〈10〉

自分の名前が書かれたぼうしが もどってきたから。

※理由を表す言葉「から。」がなければ2点減点。(教師判断)

5 つぎの に あてはまる ことばを から えらんで 書きましょう。 〈15各5〉

お話を、いくつかの 場めんに分けるときは、お話の 中の

時

場しよ

人ぶつ

を 手がかりに して 考えます。

時 ページ 声 場しよ 人ぶつ うごき

二 かたかなで 書く ことばを

から 二つ えらび、かたかなになおして 書きましょう。 〈10各5〉

インド

ワンワン

※順不同

にほん いんど わんわん ひらひら

三 に かん字を 書きましょう。 〈25各5〉

1 うし 2 あたま 3 がい 外国

4 けい 計算 する。 5 しい。 親

東 書	
2 年 4 月	
令7 国上	
話そう、二年生のわたし	
○じゅんじょ	
P 74～85	
名 前	
組 ばん	
評 点	
知識技能	／55
思考判断表現	／45

一 山口さんの メモと 話を 読んで、 もんだいに こたえましょう。 『45』

山口さんの メモ

どんな できごとか
一年生と校でいてあそんだこと。
その ときの かわいい ようす
ペアの川野さんに、ぶらんこのこぎ方を
おしえた。

①「ありがとう。」と言ってくれた。
②その ときの 気持ち
おれいを言ってくれてうれしかった。
またいっしょにあそびたい。

山口さんの 話

わたしは、一年生と いっしょに 校
でいて あそんだ ことが、心に の
こって います。
ペアに なった 川野さんに ぶらん
この こぎ方をおしえて あげました。
川野さんが、②「ありがとう。」と言っ
てくれて、とても うれしい 気持ちに
なりました。
また いっしょに いろいろな あそ
びを したいと 思います。

一 山口さんの 心に のこっている
できごととは なんですか。メモから
えらんで 十四字で 書きましょう。

一	年	生	と	校	で
あ	そ	ん	だ	こ	と

二 山口さんの その ときの 気持ち
に あう ものに ○を つけましょ
う。 『10』

- () こんどは ほかの 子と あそびたい。
- (○) また いっしょに あそびたい。
- () いっしょに べんきようを したい。

三 「ありがとう。」のような だいじな
ところは、どのように 話すと よい
ですか。声の 大きさや 話す はや
さを 考えて 書きましよう。 『10』

大きな声でゆっくり話す。

(教師判断)

四 だいじな ところが つたわる よ
うに 話す ときに、気をつけると
よい ことに ○を、まちがって い
る ことに ×を つけましよう。 『15各5』

- (×) おもいついた じゅんに 話す。
- (○) つたえたい ことを たしかめ
てから 話す。
- (×) だいじな ところは、小さな
声で 早口で 話す。

二 文しように 書く とき、「はじめ」
「中」「おわり」に どんな ことを
書くと よいですか。それぞれ あう
ように ●と○を せんで おすびま
しよう。 『15各5』

はじめ ● いったえたい ことに つ
● 何を 書く。つ
中 ● 何を 書く。つ
おわり ● 思いや 考えを 書く。

三 つぎの 文しようにの 〇に あ
てはまる ことばを 〇から え
らんで 書きましよう。 『30各10』

まず、水でおふろをぬらし
ます。 つぎに、スポンジにせ
んざいをつけます。それから、スポン
ジでおふろをこすります。

さいごに、あわをながします。
でも つぎに まず さいごに

四 〇に かん字を 書きましよう。 『10各5』

一人に 教 える。 2 ぼくの 家。

(例) (教師判断)は、授業での指導をふまえ、記述より判断し、部分点を与えてください。

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

東 書	
2年	
5	
令7 国上	
二つの 文しやうを くらべやう ー どうぶつえんの かんばんと ガイドブックー 言いつたえられて いる お話を 知ろう	
P86～107	
名 前	
組 ばん	
評 点	
■ 知識技能	/50
■ 思考判断表現	/50

かんばんと ガイドブックの せつ明を 読んで、つぎの もんだいに きたえましよう。

かんばんの せつ明

アフリカゾウ

すんで いる 場しよ

アフリカ

体の 大きさ

体の ながさは 四メートルから

六メートル 体の おもさは 四トンから

七トン たべもの

くさや、木の えだやは、くだもの

など

ガイドブックの せつ明

アフリカゾウ

すんで いる 場しよ

アフリカの そうげんや

森林に すんで います。

体の 大きさ

りくに すんで いる

どうぶつの 中で、もっとも

大きい どうぶつです。

体の ながさは 四メートルから

六メートル あり、体の おもさは

四トンから 七トン あります。

たべもの

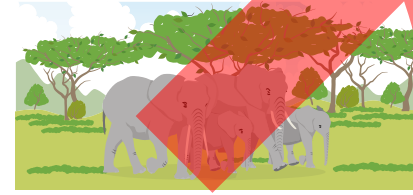
たべものは、しよくぶつです。くさや、

木の えだや は、くだものなどを た

べます。一日の うち、おきて いる

時間の ほとんどは、たべものを たべ

て いると いわれて います。



二つの せつ明には、アフリカゾウの 何に ついて 書かれて いますか。
() に あてはまる ことばを 書きましよう。

○すんで いる (場しよ)

○体の (大きさ)

○ (たべもの)

2 「すんで いる 場しよ」の ように そのあとに どんなことが 書かれて いるかを みじかく まとめた ものを 何と いい いますか。三字で きたえましよう。

見出し

3 つぎの 文の うち、かんばんと ガイドブックの りやうほうに 書いて あるものを 一つ えらんで、○

をつけましよう。

() りくに すんで いる どうぶつ

() の 中で、もっとも 大きい。

() おきて いる 時間の ほとんど

は、たべものを たべて いる。

() くさや、木の えだや は、くだ

ものなどを たべる。

()

4 かんばんと ガイドブックの せつ

明の よい ところを 書きましよう。

(20各10)

かんばんの せつ明の よいところ

・みじかいことばで 分かりやすい。

ガイドブックの せつ明の よいところ

・アフリカゾウについて ぐわしく

書いてある。

(教師判断)

二 おかしから 言いつたえられて

いる お話の 中から、知って いる

ものの だい名を 一つ 書きましよう。

(10)

やまたのおろち

だいだらぼう

(例)

三 に かん字を 書きましよう。

(30各5)

一 どうぶつ

二 肉

三 同

四 太

五 長

六 草原

園

線

い

(例) (教師判断)は、授業での指導をふまえ、記述より判断し、部分点を与えてください。

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

東 書	
2 年	
6	
令7 国上	
しを 読もう	いろいろな おとの あめー
みんな ぐうんと 手を のばせー	はなし あおう
P108~117	
名 前	
組	
ばん	
評 点	
知識 技能	/40
思考 判断 表現	/60

一 つぎの しを 読んで、 もんだいに
こたえましょう。

いろいろな おとの あめ
きしだ えりこ

あめ あめ おとの あめ
いろいろな おとの あめ
はっぱに あたって ぴん
まどに あたって ぱん
かさにあ たって ぷん
ほっぺに あたって ぽん
てのひらの なかに ぽん
こいぬの はな に ぴん
こねこの しっぽに しゅん
かえるの せなかに ぴん
すみれの はなに しん
くるまの やね に とん
あめ あめ あめ あめ
いろいろな おとの あめ



一 から あてはまる ことばを
えらんで 書きましょう。

やね あめ はな あな なか おと

2 ばちんは あまつぶの どんな よ
うすを あらわして いますか。「
ようす。」という ことばを つかっ
て、書きましょう。

・あまつぶがはじけるようす。
・はずむようす。
(教師判断)

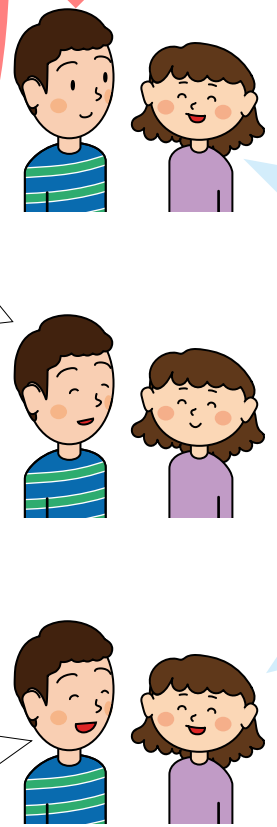
3 この しの ようすに あう もの
を一つ えらんで、○を つけま
しょう。

- (○) 雨が あたるものによって 音が かわる。
- () 雨が やんだあとには じが 見える。

二 どのように 聞くと たのしく は
なしを つなぐ ことが できるかを
考えて、 に ことばを 書きま
しょう。

① わたしは
「おおきな かぶ」の
せかいに 行って
みたいで。

③ みんなで きょうかし
て かぶを めくの が
たのし そうだと 思った
からです。



② なるほど。 どう
して その お話の せ
かいに 行って みた
いのですか。(教師判断)
※③が 答えになる 質問 になれば可。

④ みんなで かぶを
めくのは 楽しそう
だね。(教師判断)
※③の話を受け止めて いれば可。

三 友だちの はなしに しつもんを
します。() に あてはまる こ
とばを から えらんで 書き
ましょう。

「わたしは え本が すきです。」
「どの え本が すきですか。」
「ももたろうの え本 です。」
「どんな ところが すきな の
ですか。」
「ももたろうが おにを やっつける
ところ です。」

四 に かん字を 書きましょう。

一 友だちと 話 し 合 う。

2 楽しい。
3 雪 がふる。

(例) (教師判断)は、授業での指導をふまえ、記述より判断し、部分点を与えてください。

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

東 書	
2 年	
7 国上	
そうぞうを ふくらませて 読もう	
○ものの 名前を あらわす ことば	
絵を 見て お話を 書こう	
P118～139	
名 前	
組 ばん	
評 点	
知識技能	／30
思考判断表現	／70

一 つぎの 文しようにを 読んで、 もんだいに 答えましょう。 『60』

ももを 食べおわると、三びきの 子ねずみと ねこは、のこった ももを もって、かえって いきました。

そして、あと 少しの ところまで 来た と

きです。ねこは、 **ぴたっと** 止まって、

ニャーゴ **①** できるだけ こわい かおで さけびました。

そして、

「おまえたちを 食って やる。」 **②**と 言おうと した その ときです。

ニャーゴ **③** ニャーゴ **④** 三びきが さけびました。

「へへへ、たまおじさんと はじめて 会った とき、おじさん、ニャーゴって 言ったよね。

あの とき、おじさん、こんにちわはって 言っ たんでしょ。そして、今の ニャーゴが さ

よならなんですよ。」

「おじさん、はい、これ おみやげ。」

「みんな 一つずつだよ。ぼくは、おとうとに おみやげ。」

「ぼくは、妹に。」

「ぼくは、おとうとに。たまおじさんは、おとう とか 妹 いるの。」

「おれの うちには、子どもが いる。」

ねこは、小さな 声で 答えました。

みやにしたつや「ニャーゴ」より

1 に あてはまる ことばを から えらんで 書きましょう。 『20各10』

すいすいと ぴたっと そして だから

2 できるだけ こわい かおで 「ニャーゴ」と さけんだのは なぜ ですか。「くから。」という ことばを つかって、書きましょう。 『10』

三びきの子ねずみを (おどかして) 食べようとしたから。

※理由を表す言葉「から」がなければ2点減点。(教師判断)

3 三びきの 子ねずみが さけんだ 「ニャーゴ」は、どんな いみでした か。一つ えらんで () に ○ を つけましょう。 『10』

(○) さよなら () こんにちは () こわいよう

4 「これ おみやげ」と 言って、子 ねずみは ねこに 何を わたしまし たか。 『10』

もも

5 「おれの うちには、子どもが い る」を 音読するとき、どんな 声で 読むと よいですか。一つ えらんで () に ○を つけましょう。 『10』

() おどかすような 大きな 声。

(○) こまったような 小さな 声。

() こわがっているような ふるえた 声。

二 場めんの つながりを 考えて、② の 場めんの お話を そうぞうして 書きましょう。 『10』



① くまの 子と きつねの 子が 川の むこうへ あそびに 行き ました。 ところが、かえろうとすると、 はしが、なくなって いました。 二人は こまって しまいました。

② すると、くまの 子のお父さん が ふねに のって むかえに ききました。

※前後の場面とつながっていれば可。(教師判断)



③ こうして、二人は ぶじに か える ことが できました。

三 に **かん字を** 書きましょう。 『30各5』

顔

走

弟

地 図

歩

台

ある く。 だい にのる。

6

はたらく 人に話を聞こう
たんぽぽの ひみつを見つけよう
—たんぽぽ—
かんさつした ことを書こう

P 34 ~ 53

名まえ

くみ

ば
ん

点 评

知識
技能

/ 35

思考
判断
表現

/65

聞き取り問題

※はじめにテストを裏返して配る。

必要であればメモをとる等、学級の実態や目的に応じて言葉を添えてもよい。

聞き取り問題を始めます。テストは裏になっていますか。（確認する。）
今から青木さんが保健室の仕事について、三田先生に話を聞きます。一回だけ読みますので、よく聞き、問題に答えましょう。（三十秒程度を目安に読む。）

（青木さん）今日は、保健室の仕事について、お話を聞かせてください。よろしくおねがいします。

(三田先生) はい、よろしくおねがいします。

三田先生は、どんな仕事をしていますか。

（三田先生） けがをした人の手当をしたり、具合が悪くなった人の熱を測ったりする仕事をしています。

また、保健だよりも作っています。健康のために、みんなに知ってもらいたいことを伝えています。

以上で読むのは終わりです。テストを始めましょう。

二次元コードの
読み取りもしくは
クリックで再生

音声データ



※問題文が読み上げられます。

※無断で複写・複製を禁じます。